

季刊腎と骨代謝 ● 総目次

第 31 卷

2018年 Vol. 31 No. 1~No. 4

●巻頭言

- | | | |
|---|-------|---------|
| No. 1 2006 年の CKD-MBD の病態概念の提案から 11 年を経て、新たな疾患概念が提案されるのか？ | 秋葉 隆 | 5~6 |
| No. 2 骨粗鬆症における骨折治療 | 中村 利孝 | 93~94 |
| No. 3 PTH とその管理 | 秋澤 忠男 | 177~178 |
| No. 4 Promiscuous 考 | 永野 伸郎 | 249~250 |

●特 集

- | | | |
|--|-------------------------------------|---------|
| No. 1 腎疾患領域のゲノム医療と新規治療ターゲット企画に当たって
—ゲノム医療は腎臓病診療に新規治療をもたらすか？ | 内田 信一 | 7~8 |
| 1. ゲノムバンクの役割と今後の方向性 | 相馬 友和・清元 秀泰 | 9~17 |
| 2. ゲノムワイド関連解析による慢性腎臓病リスク遺伝子座の同定とゲノム創薬 | 金井 仁弘・岡田 随象 | 19~26 |
| 3. 次世代シーケンサーによる遺伝性腎疾患網羅的診断パネルの有用性と今後 | 森 崇寧 | 27~36 |
| 4. リン・マグネシウム代謝異常の遺伝子診断とマネジメント | 堀之内智子・野津 寛大
飯島 一誠 | 37~43 |
| 5. IgA 腎症の遺伝子解析と扁桃のマイクロバイオーーム研究 | 山口 浩毅・後藤 眞
成田 一衛 | 45~51 |
| 6. メガリンをターゲットとした腎臓病の診断・治療法の開発 | 桑原 頌治・細島 康宏
蒲澤 秀門・俣田 亮平
斎藤 亮彦 | 53~58 |
| 7. AIM (apoptosis inhibitor of macrophage) による急性腎障害治療 | 北田 研人 | 59~65 |
| 8. ミトコンドリアをターゲットとした腎臓病治療 | 鈴木 健弘・阿部 高明 | 67~74 |
| 9. オートファジー制御による腎臓病治療の可能性 | 高島 義嗣 | 75~82 |
| No. 2 骨粗鬆症リエゾンサービスの現状と未来 | | |
| 1. 骨粗鬆症による医療経済的負担増に対する軽減対策—リエゾンサービスの活用必要性 | 太田 博明 | 95~100 |
| 2. 骨粗鬆症病診連携の問題点 | 倉林 工 | 101~106 |
| 3. 骨粗鬆症リエゾンサービスの長所と課題 | 萩野 浩 | 107~114 |
| 4. 骨粗鬆症リエゾンサービスと骨折一次予防 | 中藤 真一 | 115~122 |
| 5. 骨粗鬆症リエゾンサービスと二次骨折予防 | 池田 聡 | 123~129 |
| 6. 骨粗鬆症リエゾンサービスにおけるリスク評価と OLS-7 | 鶴上 浩 | 131~138 |
| 7. 骨粗鬆症リエゾンサービスにおける合併疾患 | 友田 恒一 | 139~144 |

8. 骨粗鬆症リエゾンサービスと栄養指導	上西 一弘	145~150
9. 骨粗鬆症リエゾンサービスと運動指導	石橋 英明	151~158
10. 骨粗鬆症リエゾンサービスと薬物療法	三浦 雅一・佐藤 友紀	159~167

No. 3 CKD-MBD ガイドラインを再考する — KDIGO ガイドライン改訂を受けて

1. CKD-MBD ガイドライン作成に携わって	深川 雅史	179~182
2. リン・カルシウムの管理	横山啓太郎	183~192
3. PTH の管理	駒場 大峰	193~200
4. CKD 患者の骨代謝異常	奥野 仙二・稲葉 雅章	201~208
5. 保存期患者の CKD-MBD 診療	矢野 卓郎・大矢 昌樹 重松 隆	209~214
6. 腎移植患者の CKD-MBD 診療	寺下 真帆・谷澤 雅彦 柴垣 有吾	215~222
7. JSDT ガイドラインと KDIGO ガイドライン	濱野 高行	223~232
8. 整形外科医からみた CKD-MBD	前田 和洋・斎藤 充 丸毛 啓史	233~238

No. 4 Calcimimetics の新しい展開

1. カルシウム感受受容体の構造と機能	福本 誠二	251~256
2. Calcimimetics のプロトタイプ (tecalcet) の発見と開発	永野 伸郎	257~266
3. calcimimetics の上部消化管障害作用	川田 剛央	267~272
4. シナカルセト塩酸塩の臨床エビデンス	駒場 大峰	273~279
5. エテルカルセチド塩酸塩	大矢 昌樹・重松 隆	281~287
6. エボカルセト	濱野 直人・深川 雅史	289~294
7. 診療ガイドラインにおける calcimimetics の位置付け	横山啓太郎	295~305
8. 保存期・腎移植後における calcimimetics の役割	藤井 直彦	307~314
9. 副甲状腺摘出術と calcimimetics	角田 隆俊	315~323

●連載 Co-medical staffs のための ROD

No. 1 日本の透析医の 60% が知らない — calciphylaxis (カルシフィラキシス) : その 1	鈴木 正司	83~86
No. 2 日本の透析医の 60% が知らない — calciphylaxis (カルシフィラキシス) : その 2	鈴木 正司	168~170

No. 3 出番が失われた? …カルシトニン	鈴木 正司	239~242
No. 4 大英自然史博物館展で, Sir Richard Owen を再考する	鈴木 正司	325~328